



みどりもべんりもある 新しいまち

環境と共生する都市づくりニュース57号

緑とふれあう憩いの場所。
どこへでも行ける道路と電車。
にぎわい、安全・安心——、
「まち」に必要なものってなんだろう？
神奈川県我真ん中、県央・湘南にはすべてがあります。
自然に寄り添い、暮らしに寄り添う、
新しい「まち」を紹介します。



環境と共生する都市づくりの普及に向けた取組み

県央・湘南地域の自然を生き、環境と共生する都市づくりを推進するため、県では「環境共生指針」という目標を掲げています。この目標に適合する事業や取組みを行っている事業者などを、「環境共生都市づくり事業」「環境共生まちづくり運営組織」として認証し、認証マークを交付しています。

環境共生指針

- ① 自然が有する機能・魅力を生かした都市づくり
例：地域の特性に配慮した緑地の整備等
- ② 環境への負荷を低減する都市づくり
例：太陽光などの自然エネルギーの利用等
- ③ 環境とのバランスのとれた交通計画による都市づくり
例：公共交通機関へのアクセス整備等
- ④ 地域アメニティを創出する都市づくり
例：地域に開かれたコミュニティスペースの整備等



認証マーク

▶ これまでに認証した事業者（敬称略）

イオンモール（株）／（学）幾徳学園／いすゞ自動車（株）／（株）かながわGAパートナーズ／関西ペイント（株）平塚事業所／関電不動産開発（株）／（学）北里研究所／クリタ分析センター（株）／グローバル・ロジスティック・プロパティーズ（株）／信濃運輸（株）／（医）清心会／大和ハウス工業（株）／大和ハウスライフサポート（株）／大和リース（株）／東京建物（株）／（独）都市再生機構 神奈川地域支社／（学）日本大学／野村不動産（株）／パナソニック（株）／パナホーム（株）／（特）藤沢商工会議所／（医）朋友会／三井食品（株）／三井不動産（株）／三井不動産レジデンシャル（株）／（株）リコー／GLP ツインシティ特定目的会社／平塚市／藤沢市／茅ヶ崎市／秦野市／綾瀬市／寒川町／神奈川県

▶ これまでに認証した運営組織

（一社）海老名扇町エリアマネジメント／FujisawaSST マネジメント（株）

事業内容についてはHPをご覧ください▶



新幹線新駅の誘致をめざして
「つながる」まちづくり ツインシティ



暮らし起点のリアルなスマートタウン
生きるエネルギーがうまれる街
Fujisawa SST

海老名駅前新しい歴史を刻む
広い空と雅な風 海老名扇町



〔発行〕神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会（神奈川県／相模原市／平塚市／藤沢市／茅ヶ崎市／厚木市／伊勢原市／海老名市／座間市／綾瀬市／寒川町／県市長会／県町村会／県商工会議所連合会／県商工会連合会）

同盟会についての詳細はこちら▶ [新幹線新駅同盟会](#) 検索

〔問合せ〕事務局：神奈川県国土整備局都市部環境共生都市課 〒231-8588 横浜市中区日本大通1 TEL.045-210-6033

写真提供：表紙右下／裏表紙右・FujisawaSST協議会、表紙上から3つ目／裏表紙左・厚木市

令和4年2月発行

「つながる」まちづくり ツインシティ



東海道新幹線の新駅を誘致している寒川町の倉見地区と、相模川を挟んで隣り合う平塚市の大神地区を新しい橋で「つなぎ」、一つの新しい「まち」にするツインシティ整備計画。ツインシティは、国道129号等の幹線道路が充実し、高速道路へのアクセスが良く、さまざまな企業や商業施設などが集まります。富士山の眺望や相模川など、緑豊かな景観にも恵まれているので、自然を生き、環境と共生する都市となるよう、地域の人々や企業が協力してまちづくりに取り組んでいます。

都市と緑を「つなげる」

「環境との共生」の理念に賛同した企業が集まり、太陽光発電の活用など地域全体で省エネルギーに取り組めます。

また、敷地内の緑化や四季折々の花々を植えた公園などの整備により、うるおいある景観をつくれます。

公共交通の利用を促進することで、自動車利用を減らし、低炭素化をめざします。



にぎわい「つながる」

倉見地区に新幹線新駅を誘致し、大神地区と倉見地区が新しい橋でつながると、両地区を行き交う新たな人の流れが生まれます。

大神地区には複合商業施設や公園など、にぎわいの場をつくるほか、新しい橋の周辺にバスなどの公共交通に乗降できるトランジットセンター(交通広場)を整備し、住民とまちを訪れる人の双方が利用しやすい、地域の玄関口をつくれます。



「つながり」から生まれる

大神地区は、計画段階から地元の住民や土地の所有者と行政が連携してまちづくりを進めているので、エリアごとに用途が整理され、道や空間もゆとりある、利便性や景観面で優れた「まち」になります。

住む場所、働く場所、買い物する場所のほか、交通拠点や学校など、さまざまな都市機能が揃い、多様な人々が交流します。この交流の中から、新しい産業や生活スタイル・ワークスタイルが生まれる、そんな「まち」をめざしてツインシティ大神地区のまちづくりは進んでいます。



新幹線で「つながる」

新幹線新駅を誘致している倉見地区は、JR相模線が通り、圏央道の2つのインターチェンジが近接するなど、南北方向のアクセスに優れています。この地区が、新たな橋で平塚市とつながり、さらに新幹線新駅を誘致できれば、さまざまな都市とつながる交通の要衝となります。

リニア中央新幹線の橋本駅周辺を「北のゲート」、東海道新幹線の新駅周辺を「南のゲート」として整備し、全国とつながる窓口(ゲート)としていくことで、県央・湘南地域がより便利で活力にあふれることをめざします。



写真提供：平塚市

新幹線の 新駅が できたら...

全国どこでも行きやすくなり、旅行や帰省、ビジネスなどが便利に。例えば、普段は自然が豊かな県央・湘南のまちで在宅勤務をして、月に一度、県外のオフィスに新幹線でサッと出社、という働き方もできるようになります。東海道新幹線の新駅を誘致し、より便利で暮らしやすいまちの実現をめざしています。

広い空と雅な風 海老名扇町



高速道路や3つの鉄道が通る便利な「まち」・海老名は、歩いてみると広い空に丹沢大山が浮かび、相模川沿いの公園や田園風景で心やすらぐ「まち」でもあります。

海老名駅西口の扇町は、その景観や環境をまもりつつ、商業施設や公共空間、住宅などの都市機能が一つになった便利なまちを、土地の所有者・地域の住民・事業者が力を合わせ、つくっています。

歩いて楽しいまち

駅へとつながる中心広場は地域の玄関口となり、そこから伸びるプロムナード（遊歩道）沿いには店が並び、多くの人を訪れます。誰もが利用しやすい空間としてバリアフリーに配慮し、死角をなくし、人の動きを妨げないつくりになっています。ゆとりのある空間なので、イベント開催時には地元のお店がキッチンカーやブースを出すことができ、道路に絵を描くチョークアートなどのイベントもできます。

にぎわいと交流がうまれるまちには楽しさがあふれ、「行ってみたい」「住んでみたい」と人々を惹きつけます。



環境にやさしいまち

周辺の景観と調和した建物は省エネルギー性の高いつくりになっています。プロムナード沿いの施設には緑地スペースを設け、高さのある柵などをなくすことで「ゆとり」を生み出します。さらに、プランターやベンチに植えた季節の草花や街路樹が、散歩する人々を癒します。

こうした景観や環境をまもるまちづくりを続けるためのガイドラインを、協力してつくることで、扇町ではさまざまな施設が集まりながらも、環境と共生した快適なまちが形成されています。

地域で育てるまち

まちづくりのガイドラインを運用している「(一社)海老名扇町エリアマネジメント」は、扇町内の土地の所有者・住民・事業者等が参加している運営組織です。地域が主体となることで、地元からの積極的な参加によるまちづくりを続けています。

公共空間の管理を市から任されている*ため、周囲の施設と協力してイベントを開催したり、まちの清掃や警備などの維持管理も地域全体で行っています。

また、多くの人がかかわるまちとして災害対策にも力を入れていて、防災イベントで地域の防災意識を高めたり、扇町内の事業者が主体となった防災連絡会で災害発生時の避難経路などについて話し合い、災害に強いまちをめざします。

扇町は、安全・安心なまちを、地域が協力して育てています。

*海老名駅西口特定公共施設（中心広場・プロムナード・バス乗降場・タクシー乗降場）の指定管理を受託



扇のように末広がり、成長

「扇町」という町名は2015年に「まちびらき」した時に新しく決まった名前です。当時の住人は100人不足でした。まちに関わる人たちが力を合わせてまちづくりを続けてきた結果、美しい景観とにぎわいがあり、安全・安心で住みやすいまちとなり、今では子育て世代を中心に約2000人が住むまちに成長しています。



生きるエネルギーが うまれる街 Fujisawa SST

フジサワ サステナブル・スマートタウン

Fujisawa SST

先進的な取り組みを進めるパートナー企業と藤沢市が官民一体の共同プロジェクトで実現した新たなまち『Fujisawa サステナブル・スマートタウン(Fujisawa SST)』。技術だけではない、「人」を中心に置いた「暮らし起点」の発想とプロセスで、住人の快適性や未来の暮らしを考えて設計されました。

湘南・藤沢の太陽と心地よい風。

そんな自然の恵みを取り入れた「エコで快適」

そして「安心・安全」な生活が持続する「まち」からは、「生きるエネルギー」がうまれます。

自然を活かす

すべての戸建住宅に太陽光発電と蓄電池を備え、家全体の電力使用状況をシステム管理し、太陽光からうまれたエネルギーを無駄なく活用します。公共用地には「コミュニティソーラー(太陽光パネル)」が設置され、地域全体で再生可能エネルギーを主力にしています。

太陽の光を遮らないよう工夫されたまちの造りは、湘南の海からの風が吹き抜ける「風の通り道」に沿って遊歩道や街路樹が設計され、環境と共生した快適な暮らしを実現しています。

こうしたまちづくりを持続するため、暮らしをサポートするマネジメント会社*やガイドラインがあるので、住人はエネルギーを賢く使い、環境と家計にやさしいエコな生活をおくれます。

※ FujisawaSSTマネジメント(株): 持続的なタウンマネジメントを実現するため設立された企業体組織。出資企業はパナソニック(株)・パナソニックホームズ(株)・三井不動産レジデンシャル(株)・三井物産(株)・関西電力(株)・日本設計・東京ガス(株)・東日本電信電話(株)・三井住友信託銀行(株)

シェアして活かす

エネルギーも移手段も、このまちではシェアすることで新たなつながりがうまれます。

コミュニティソーラーでつくった電気はまちの電力系統に送られて、非常時には地域の人たちにシェアされます。災害に強いインフラ整備を活かすため、マネジメント会社が防災イベントなどの企画・開催を支援し、地域の人たちが交流を深めながら非常時に備えられます。

電気自動車や電動アシスト自転車のシェアリングサービスで、車を持っていない人も気軽に出かけることができます。

地域のイベントや勉強会、習い事教室に参加し、人と人、人とまちの関係がふくらんでいきます。



くらす人の声を活かす

時代や住人のニーズに合わせた変化でいつまでもスマートなまちをめざし、住人たちによる自治組織とマネジメント会社が協力して、住人主体のまちづくりを続けています。

自治組織はイベントの企画やまちの美化・緑化活動、パトロールや防災訓練などのコミュニティ活動を通じて住人たちの生の声をすくいあげ、それを聞いたマネジメント会社がパートナー企業や自治体などと住人との仲介をしながら、住人のニーズをかなえることで、さらに住みやすいまちへと進化しつづけます。企業も子ども向けの就労体験を実施するなど、住人とのかかわりを積極的に築き上げています。

まちを好きになるから、まちに参加したくなる。そんな仕組みがあることで、暮らしを楽しみながら「生きるエネルギー」をうみつづけます。



写真提供: Fujisawa SST協議会

まちの人の声から新たな「暮らし」体験を

自律走行ができる小型低速ロボットを使った、配送サービスの実証実験も行っています。例えば、自宅からオンラインで服薬指導を受けた人に、医薬品を届けたりしています。実証実験から住人のリアルな声を集め、技術を活かした新しい配送サービスの実現をめざしています。